

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事、部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす

1. 勉強と部活・行事の両方とも本気で取り組む学校（多様性とバランス）
2. 希望する進路を実現する学校（自主性と挑戦する気概）
3. 地域から愛され信頼される学校－開かれた学校（社会性につながる力）

2 中期的目標

1. 授業の充実

- ① 授業アンケートを軸にして、良い授業の追求に組織的に取り組む
－個人・教科ごと改善テーマの設定・アンケート結果に基づくフィードバック・振り返りシートの作成の PDCA サイクルの徹底
- ② 授業改革・改善に積極的に取り組む
－ICT の活用、3 年間の学習スタンダードの策定、教育センターとの連携
- ③ 着想・展開・発表する力を育む
－学級読書会、暗唱大会（1 年）、プレゼン大会（2 年）、情報プレゼン授業との合同発表会、外部コンテストへの積極参加など
- ④ 多くの教科を学んで、教養の基礎となる知識を身に付ける
－センター試験受験者の増加（合計 200 名）

2. 自主自律の精神の涵養

- ① 勉強と部活の両立
－学習・生活習慣の確立
- ② 規律とけじめの遵守
- ③ 生徒会活動の自主運営
－学校祭の自主企画・運営
- ④ 協働と競争の精神の育成
－互いの個性を認めてゴールをめざすチームワーク、挑戦する気概と結果に対し責任を取る覚悟

3. 進路の実現

- ① 授業を補完する講習の充実
- ② 自学力（学習習慣）
- ③ TPO を踏まえた適切な進路ガイダンス
－センター試験受験者（200 名）、国公立現役合格者（30 名）、関関同立（150 名）、産近甲龍（150 名）

4. めざす学校の実現を支援する機能的な組織運営

- ① 学年団と分掌組織の連携
- ② 首席をヘッドにした会議体と組織運営
－分掌間の連携の推進、組織力（チームワーク）
- ③ 積極的な OJT を通し若手・ミドルの人材育成

5. 地域との連携

- ① PTA、学校協議会と連携した改革の推進
- ② 学校説明会、HP などを活用した積極的な情報発信
- ③ 地域活動への積極的な参加
－図書館活動、早朝あいさつ運動、地域清掃、地区文化祭への参加

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○学校生活について：生徒・保護者ともに学校生活全般についての肯定感が高い。</p> <p>生徒回答では、「学校行事は楽しいか」肯定度 89%（昨年度 87%）（以下同様）、「部活動への取組」75%（74%）、「生徒会活動・HR 活動は活発である」68%（69%）、「学校へ行くのが楽しい」82%（81%）、保護者回答では、「学校行事の取組」89%（89%）、「部活動への取組」76%（74%）、「学校へ行くのを楽しみにしている」84%（83%）と生徒・保護者ともに学校生活全般については、今年度も高い肯定度の回答をいただいています。</p> <p>多くの生徒が学校生活・行事に積極的に参加し「学校の規則をよく守っている」94%（92%）と回答していることから、生徒は与えられた環境・ルールの中で、学校生活を有意義に楽しく過ごしている事がよくわかります。また、「家庭で学校のことについて話をする。」が 71%（70%）と、保護者と生徒のコミュニケーションが比較的よく取れていると考えられます。</p>	<p>委員構成：大学教授（座長）、地元中学校長、地元自治会会長、学習塾校長、本校 PTA 会長、本校同窓会会長</p> <p>第 1 回 平成 27 年 6 月 22 日 協議内容 ①本年度の学校経営計画および学校評価について ②本校の進路状況と取組みについて ③今後に向けた課題について－さらなる希望進路実現の方策</p> <p>第 2 回 平成 27 年 9 月 12 日 協議内容 ①文化祭視察 ②登美丘高校の行事の在り方について</p> <p>第 3 回 平成 28 年 2 月 1 日 協議内容 ①本年度の学校経営取組状況について ②平成 27 年度進路状況について ③学校教育自己診断について ④本校教育活動に関する意見書について ⑤今後の方向性について</p> <p>3 回のまとめとして下記の提言をいただきました。</p>

外部（塾、中学等）の評価でも「登美丘の生徒や卒業生は、学校に満足している。」いわゆる、学校満足度数が高いという評価をいただいています。今後もこれを大切に継続していきたいと考えています。

○授業や学習への取組：授業への取組態度は良いを維持・さらに向上し、かつ、家庭での学習時間も、やや向上したが、まだ満足できるレベルではない。

生徒回答では、「授業への取組」は 80%（82%）で、保護者回答では「一日 1 時間以上家庭で学習している」に対し、「よくあてはまる」が 25%（23%）、肯定度でも 56%（52%）、全くあてはまらない度は 13%（14%）でした。「塾・予備校で学習している。」には、35%（34%）（一年 27%（22%）・二年 30%（26%）・三年 49%（55%））が塾・予備校を利用していると回答しています。

全体としてみると学習面において特に学力を定着させるために重要な家庭学習がやや上昇したと読み取れます。これは、各学年で取り組んでいる週末課題や、学力実態生活調査の成果などが揚げられます。ただ、一日 1 時間以上の家庭学習が昨年初めて 50%を超え、さらに今年数字をアップ出来たが、これに満足せず、今後も指導を続けるとともに、自習室の利用の促進や、保護者とも協力しながら家庭学習の習慣をつけさせたいと考えています。

○学校に期待されている事：授業力のアップ、わかる授業に向けて。かつ、保護者の 9 割は登美丘に進学させてよかったと回答するが、進路指導については更なる充実を望んでいる。

教育目標の一つとして、より良い授業を行う。いろいろな教科において、発表の場を持ち自己の考えをまとめ発表するということを掲げています。

生徒回答では、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が一昨年 40%で、昨年 55%と大きくアップし、今年さらに 61%とアップしました。英語教育の一環として Recitation Contest, Presentation Contest や情報教育ではパワーポイントを使ったプレゼンを行ったりしている。さらに今年はアクティブ・ラーニングの手法を用いた授業も研究し、より生徒達が考え発信することをめざしている。

また、「授業はわかりやすい」64%（64%）、「先生に質問しやすい」70%（63%）と、昨年と同じか改善傾向にあり、今年度の目標である教員の授業力アップの取り組みも継続していきたい。

保護者回答では、「登美丘に進学させてよかった」90%（88%）、「学習指導に満足している」79%（74%）、「進路指導に満足している」75%（74%）、と回答していますが、「学習指導・進路指導に満足している」の「よくあてはまる」の回答が、15%（14%）・15%（14%）と全アンケート質問項目中ではかなり低い数字となっており、記述意見の中にも進路・学習に関するものも多く、進路指導（学習指導にも通じると考えます）への期待は大きいものであると判断しなければなりません。

以上の結果より、高校生活、学校行事、生活指導の充実はもとより、学習面においても、授業評価アンケート等により現状をチェックし、授業のさらなる充実・工夫に努めていかなければならないと考えています。進路指導についても、全体への進路指導に加えて、きめ細かい個々の進路相談にも力を入れ（その一つとして「チーム国公立」での指導）、個人がしっかりと実力をのばし、自己実現につながるように指導していかなければならないと考えています。

また、学校祭の日程に関しても P T A 座談会で議論した通り、学習面・進路面などいろいろなことが関係していて、すぐに答えに到達するものでもありません。そこで、課題を見つけながらよりよい学校を作っていくために、将来構想委員会を立ち上げ現 3 年生および保護者への学校祭の日程に関するアンケートを取ることにしました。

○情報発信について：活用され、一定の評価をいただいている。

保護者回答では、「ホームページを見たことがある」79%（71%）、「連絡プリントは必ず見る」70%（68%）、「365 日いつでもネットは役立っている。」74%（77%）と情報ツールについては、ほぼ定着し活用され、一定の評価をいただいていると考えられます。今後は、さらに、保護者だけでなく地域の方々にも情報を発信し、地域に根差した学校づくりに努めたいと考えています。また、情報の共有と発信のために、在校生の出身中学校を訪問し、かつ、昨年度から学区撤廃（入

【学校協議会からの提言】

1. 学習指導について

○「着想・展開・発表」を基本コンセプトにして、良い授業の追求に引き続き取り組んだ。今年度は教育センターと連携して「深い学び」を動機づけることを目的にアクティブ・ラーニングの手法を教員全体で学んだ。来年度は各教科が普段の授業の中で実践し一層の授業改善を進めていただきたい。また、英語暗唱大会（1 年）、プレゼン大会（2 年）、情報のプレゼン優秀作品の発表など、「発表する機会」が生徒回答で 40→55→61%と着実にアップしているのは評価できる。

○第 2 回学校協議会（9 月）では、希望進路の実現に関連してカリキュラムの見直しについても議論した。その際、急激な制度変更は避けるようにと助言したが、現在実施中の授業改善、週末課題、講習を 3 点セットとして一層の磨きをかけ、多教科を粘り強く学ぶ生徒を増やす一方で、国公立大学志望者の希望を叶えることに最善を尽くし、合格者実績を上げるなかで、3 年間を目標にカリキュラムを見直す土壌を作っていくという方針については来年度以降の展開に注目したい。

2. 進路指導について

本年度の学校経営計画において進路の数値目標を掲げた。また、チーム国公立を立ち上げた。1 月 8 日現在、半数以上の生徒が進路未決定であるが、よく健闘しているとの報告を受けた。教職員アンケート結果にもあるように進路実現に向けて、授業は元より進路指導、講習、就職指導など、どの項目においても数値が大幅にアップしていることから、今年度の最終結果並びに来年度以降の取組内容に期待をしたい。チーム国公立がさらに有効に機能するため、学年との連携など一層の組織化を進めていただきたい。

3. 生徒指導について

生徒、保護者ともに学校全般について引き続き満足度が高い。より良い学校作りに全教職員が一丸となって努力を惜しまず取り組んでいることの結果であり敬意を表する。遅刻者も顕著に減っており規律とけじめが定着している。教職員と保護者の服装、頭髪、挨拶などの基本的な生活習慣に関する指導においても達成感が強く表れている。勉強と部活・行事の両立をめざすうえで生活習慣と学習習慣の確立は両輪であり今後も引き続き努力をお願いしたい。

4. 組織運営と開かれた学校作りについて

○首席をヘッドにして運営委員会から職会への良い流れを作り、コミュニケーションの緊密化をめざす取組は、教職員アンケート結果でも P D C A の実施について顕著に改善がみられた。分掌間の連携には一層の努力を期待したい。また、将来構想委員会を立ち上げ、学校祭の在り方など学校全体の課題を生徒（会）、保護者を巻き込んで議論し全体解を追求するやり方は今後の展開に注目したい。めざす学校像の実現に向けて何をどう課題化するかが重要になろう。

○早朝あいさつ運動、地域清掃、地区文化祭などに積極的に参加し地域とのつながりを大切にしている学校として信頼されていることは登美丘高校が他校に誇る資源（強み）であり称賛に値する。今後とも継続していただきたい。

【今後に向けて】

開かれた学校作りの一環として、学校全体にかかわる課題を浮き彫りにし、学校協議会、P T A 座談会などの意見に耳を傾け、多角的に議論を展開することは改革・改善を推進するうえで必要不可欠である。今後は将来構想委員会とも連携し、学校、P T A、同窓会などチーム登美丘でより良い学校作りに邁進していただきたいと願っている。学校協議会もめざす学校の実現像に向けてベストを尽くして支援していきたい。

試制度変更)になり南海高野線沿線(大阪狭山・河内長野・富田林)の中学校からも生徒を迎えている為、その方面の中学校にも訪問した。今後も中学校との連携を深めながら教育効果があがるように継続していきたいと考えています。

○教職員アンケートの結果

「生徒の進路実現に向けて講習等を積極的に実施し、学習意欲や学力の向上が図られている。」肯定度 98%(昨年 96%) (以下同様)、「学習到達度の低い生徒に対しての適切な学習指導」補習等の取り組みです。95%(82%)、「教科や学年等により家庭学習を充実させる工夫。」90%(82%)、また、進路指導(大学・短大・専門学校への進学指導、企業就職への情報収集と進路相談、面接指導、保護者懇談、等)においても、「計画的な進路指導。」95%(82%)、「生徒の進路希望に応じた情報収集や活用。」93%(86%)と、どの項目でも数値を高水準にすることができた。その多忙な実務に追われながらも奮闘している姿がうかがえます。

また、生徒指導においても、「服装、頭髪、挨拶等の基本的生活習慣に係る指導。」98%(94%)、「遅刻や私語がない等の授業規律を身につけさせる。」90%(86%)、と昨年より改善させています。「学校行事や校務分掌等において、Plan(計画),Do(実施),Check(点検).Action(改善)が実施されている。」85%(73%)とアップしています。進路指導と生徒指導は生徒を育てるための両輪であるので、さらに教職員が一致して取り組んでいきたい。また、PDCA サイクルの CA が次のステップアップにつながると考え、忙しいながらも総括会議等の実施を促していきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
授業の充実と進路の実現	良い授業の追求	<ul style="list-style-type: none"> ○進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8月 個人・教科にフィードバック 9月 個人・教科から振り返りシートの提出 10月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科フィードバック 2月 個人・教科から振り返りシートの提出 3月 成果発表(国・数・英・社・理他) ○教育センターとの合同研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ポストパッケージ研修への参加 ・研修成果の「良い授業」へのフィードバック ・ICT推進PTの推進(ICTの活用) ○発表する力を育む <ul style="list-style-type: none"> ・「着想する・展開する・発表する」を授業に取り入れる ○授業と多教科の学びを基本とする <ul style="list-style-type: none"> ・授業→センター試験→選択肢の広がり ○進路コース別講習の一層の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を補強する講習の実施 ・1,2年次夏休み、2年次放課後、3年次早朝・放課後の開講 ○自学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を増やす ・自習室利用の活性化 ・週末課題の効果検証 ○3年次カリキュラムの受験型へのシフトの研究(教務部統括担当首席のテーマとして推進、教育センターとの合同研究) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人・教科の改善点確認 ・平均3点以上教員10%増 ・生徒自己診断「わかりやすい授業」64→70% ・ICT活用による授業アンケート(教材活用)項目の前年度比アップ(英語、理科、社会) ・学級読書会(1,2年)、英語暗唱大会(1年)、英語プレゼン大会(2年)、英語・情報合同プレゼン大会の行事化(年1回全員) ・生徒自己診断「発表する機会」55→70% ・講習開講状況(教科・講座・タイプ別、参加人数)の前年度比定性評価 ・自己診断「1日1時間以上の家庭学習」52→70% ・チューターによる個人レッスンの充実(年1→5回) ・小テストなどと連動して相関関係のチェック ・センター受験者120名 ・関関同立現役合格100名 ・産近甲龍現役合格150名 ・国公立現役合格20名 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・週末課題・講習の連携に加え、センターとの連携により教員の学習への取組意識が高まり相乗効果を生んでいる。(○) ・平均3.09/58名、教員自己診断の「適切な学習指導」「家庭学習を充実させる工夫」が大幅増(○) ・「わかりやすい授業」は現状維持(△) ・ICTを日常的に活用している英語、物理、地理などは高い評価である。来年度は天井設置型プロジェクターの導入を予定しており活用の広がりを期待する(○) ・1年英語暗唱大会と情報プレゼン発表、2年英語プレゼン大会は昨年比顕著にレベルアップ。センターと連携したパッケージ研修II(AL)との相乗効果も実感した(◎) ○発表、多教科の学び、講習 <ul style="list-style-type: none"> ・「発表する機会」は61%(40→55→61%)(△) ・講座数、参加人数などは昨年並みに多い。受験を意識した講習も出てきたが、まだ授業の延長。来年度は教員の予備校などでの研修を計画。(△) ・「家庭学習」は52→56%(△) ・チューターによる定期考査前質問日の設定にのべ141名参加(5回、チューター2名)自習室利用の活性化にもつながった(○) ・週末課題の見直し議論→習熟度別などの工夫をする(○) ○カリキュラム改訂 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム国公立の立ち上げ、3年間でセンター受験者(200名)、国公立志望者(80名)、合格者(30名)の土壌を作った上で国公立向けカリキュラムを完成させる。将来構想委とも連携する。(○) ・センター受験者77名(△)
	進学実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年次夏休み、2年次放課後、3年次早朝・放課後の開講 ○自学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を増やす ・自習室利用の活性化 ・週末課題の効果検証 ○3年次カリキュラムの受験型へのシフトの研究(教務部統括担当首席のテーマとして推進、教育センターとの合同研究) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「1日1時間以上の家庭学習」52→70% ・チューターによる個人レッスンの充実(年1→5回) ・小テストなどと連動して相関関係のチェック ・センター受験者120名 ・関関同立現役合格100名 ・産近甲龍現役合格150名 ・国公立現役合格20名 	<ul style="list-style-type: none"> ・チューターによる定期考査前質問日の設定にのべ141名参加(5回、チューター2名)自習室利用の活性化にもつながった(○) ・週末課題の見直し議論→習熟度別などの工夫をする(○) ○カリキュラム改訂 <ul style="list-style-type: none"> ・チーム国公立の立ち上げ、3年間でセンター受験者(200名)、国公立志望者(80名)、合格者(30名)の土壌を作った上で国公立向けカリキュラムを完成させる。将来構想委とも連携する。(○) ・センター受験者77名(△)

府立登美丘高等学校

自主自律の精神	自主自律とチームワーク	<ul style="list-style-type: none"> ○1, 2 年次に学年団・分掌・部活の連携による学習・生活習慣の確立支援 ・スタディサポートの分析会の活用（フィードバック、成果など） ・規律とけじめ ・部活動内容・活動時間など自主的な見直し ○生徒活動の自主運営（学校祭） ○校内・外研究発表、コンテスト、研修への積極挑戦（文化祭研究発表、堺市教委主催海外人権研修、語学研修、校外スピーチ大会への参加など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻（前年度比 5%減） 下校時間厳守 ・家庭学習時間、考査 1 週間前活動休止、下校時間、休日活動時間等のチェックポイント及び PTA 座談会、保護者自己診断の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習・生活習慣の確立支援、積極的参加など ・遅刻 2 学期末時点で 1770→782 名（56%減）（◎） ・保護者自己診断の「生徒指導」83%、「学習指導」79%、「進路指導」75%の満足度は高い。（○） ・PTA 座談会で学校祭の在り方について議論。保護者自己診断でも多くの意見を確認。学校全体の問題として将来構想委を立ち上げ生徒(会)、教員、保護者の実態を把握すべくアンケート作成中（○） ・語学研修（NZ、米国）、A F S 長期留学生受入（H27, 28） 校内英語（情報）暗唱・プレゼン大会は発展的だったが校外大会への参加は不活発（△）
機能的な組織運営と校外ネットワークの活用	機能的な組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○首席をヘッドにした会議体と分掌組織運営 ・首席の進行により運営委から職会への良い流れを作り、コミュニケーションの緊密化を図る ・2 名の首席が各進路指導部・生徒指導部・総務部と教務部・保健部・情報図書部を統括し分掌間及び学年団の連携を図る ○人材育成（OJT） ・公開研究授業、成果発表、センターとの合同研修などを利用し積極的に OJT の機会を作る ・HP、学校説明会の機会を活用し若手・ミドル育成に積極的に取り組む ○改革のモニタリング機能として、PTA、学校協議会の積極的活用 ・PTA（座談会の実施、国際交流への参加など）、学校協議会（授業から進学への道筋）を主要テーマとして緊密に連携を取る ○地域活動への積極的な参加を通し、社会の一員としての自覚と誇りを育む ・早朝あいさつ運動、地域清掃、地区文化祭、防犯パトロールなどへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自己診断の「行事・分掌における PDCA の実施」73→80%、「教員間の情報交換」80→85% ・若手・ミドルの登用機会のチェックリスト（新採公開研究授業、各種学校説明会、センターとのポストパッケージ研修、授業改善成果発表、校内公開研究授業など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議体と分掌組織運営 ・教員自己診断「PDCA の実施」73→85%、「情報交換」80→78%（△） ○人材育成（OJT） ・特にセンターとのパッケージ研修 II（AL）、新採による公開研究授業、将来構想委チーム（若手で構成）は全体への影響も大きく効果があった（○） ○改革のモニタリング機能 ・学校協議会、PTA 座談会でカリキュラム、学校祭の在り方などについて議論→運営委・職会→将来構想委の立ち上げ（○） ○地域活動への積極的な参加 ・ダンス部の全国優勝と朝日新聞掲載の効果で地域社会との関係緊密化が高まった（○）